

2009年1月14日

国土交通大臣 前原 誠司 様

「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」座長 中川 博次 様

別紙申入れ団体連絡先

〒102-0083 千代田区麴町 6-4 麴町ハイヴ 502 谷合周三法律事務所内

TEL03-3512-3443 Fax03-3512-3444

ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会事務局

弁護士 谷合周三

### 「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」の公開を再度求めます

2009年12月、前原国土交通大臣はわが国の治水政策の転換を目指すとして、「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」を立ち上げましたが、12月3日に開催された第一回会議は非公開とされました。私たち全国の河川や環境の問題に関わる31市民団体は、さる1月6日、連名で有識者会議の公開を求める要望書を前原大臣および中川有識者会議座長に配達証明で提出しました。

しかしながら、期限までに回答はなく、昨日の国交省発表により、1月15日に開催されることとなった第二回会議も、前回と変わらず非公開となることが明らかになりました。「第1回会議で非公開を会則に盛り込んだので、第2回を公開にするには、会則変更が必要になる」というのが国交省泊氏の電話での説明です。

1月15日には治水政策の転換を目指してきた二人の意見陳述が予定されていました。嶋津暉之氏と宮本博司氏です。

嶋津暉之氏（水源連 共同代表）は「公開を求めたが、受け入れられなかった。有識者会議答申が少しでも後ろ向きになるのを防ぐには陳述しておくことが大切」と判断され、15日の陳述に応じることを選択されました。

宮本博司氏（(元淀川水系流域委員会委員長・元国土交通省防災課長)は、「国民の生命に関わる治水の考え方を転換する議論は国民の前で堂々で行うべきであり、また国民を巻き込んだ中で議論しないとどんなに素晴らしい方針が出て、実効性が伴わなくなる。本気で転換をやろうとするのなら、その最低で絶対の条件は会議の公開である。私は会議が公開にならなければ、意見陳述に行きません。」としています。

お二人の1月15日の対応は異なりますが、「国民の生命に関わる治水の考え方を転換する議論は国民の前で堂々で行うべきである」「公開を求める」という考えは共通しています。

わが国の治水政策の今後に大きな影響を与える「有識者会議」が国交大臣の私的諮問機関であるからなおさらのこと、その答申が国民に認められるには、その審理過程が透明なものでなければなりません。密室で作成された答申はその内容の如何を問わず、国民の信用を得るのは困難です。

河川行政の大転換を目指す前原大臣がこの有識者会議を非公開扱いしていることに私たちは理解が及びません。有識者会議の審理内容が国民に支持されるには「公開」が大前提です。私たち31市民団体は、貴職が「有識者会議」を公開にすることを強く求めます。

併せて、有識者会議の事務局を官僚任せにするのではなく、政務三役直轄で担われることを要請いたします。

八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会  
八ッ場ダムをストップさせる群馬の会  
ムダなダムをストップさせる栃木の会  
八ッ場ダムをストップさせる茨城の会  
八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会  
八ッ場ダムをストップさせる千葉の会  
八ッ場ダムをストップさせる東京の会  
霞ヶ浦導水事業を考える県民会議

霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会義  
利根川の水と自然を守る取手連絡会  
茨城県の水問題を考える市民連絡会  
八ッ場あしたの会  
環境会議・諏訪  
美しい錦川を未来へ手渡す会  
太田川ダム研究会  
みんなで佐倉市をよくする会  
相模川キャンペーンシンポジウム  
ダム反対鹿沼市民協議会  
九州住民ネットワーク  
球磨川からすべてのダムを無くして鮎の大群を呼び戻す会  
奥胎内ダムを考える会  
設楽ダムの建設中止を求める会  
設楽ダムの建設中止！名古屋の会  
日進自然観察会  
身近な川を見守る会  
全国自然保護連合  
利根川流域市民委員会  
利根川・江戸川流域ネットワーク  
市川緑の市民フォーラム  
溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える  
導水路はいらない！愛知の会